RandoM

Rittor Music

特別号

Take Free

WAKE UP!!!
ALL BASSISTS.

Bass Magazine Presents

J×AKIHIRO NAMBA

THE POWER OF LOW-END

二度とないこの瞬間を
目撃せよ！

二大ベース・ヒーローによる奇
Bass Magazine
J×AKI
NA
THE POWER OF
ソロ・アーティストとして、LUNA
き続けるJ。Hi-STANDARD
ソロ・ワークも充実する難波章浩。
て行なわれた特別対談をきっかけ
果たして、ふたりの歴史的
二度とないこの
2013年3月
OPEN 16:30
新木場スタ
OPENING ACT：
TICKETS
前売りチケット ¥3,800（税込／ドリンク代別）
イープラス http://eplus.jp/bassmagazine/
チケット絶賛発売中
主催・企画：BASS MAGAZINE RittorMusic 制作：SDFインテグレーション 協力：FOURTEEN／エイベックス・マネジメント(株)

跡の対バン・イベント、開催

Presents

HIRO MBA LOW-END

SEA のベーシストとして精力的に動
のベース＆ヴォーカルとして活躍し、
ベース・マガジン通巻250号を記念し
にして、今、奇跡の対バンが実現する。

“共演”シーンはあるのか…？
瞬間を目撃せよ！

30日(土)

START 17:30

ジオコースト

POP DISASTER

[TICKETS NOW ON SALE]
チケットぴあ　0570-02-9999　P-code 185-965
ローソンチケット　0570-084-003　L-code 79358
イープラス　http://eplus.jp　(PC・mobile)
SOGO TOKYO WEB SITE　http://www.sogotokyo.com/　(PC・mobile)

最新情報は随時更新中!!　特設サイト　http://www.rittor-music.co.jp/bm-low-end/

後援: ESP　TOWER RECORDS　www.Sib-tv　SPACE SHOWER TV　MUSIC MONSTERS　問い合わせ: SOGO TOKYO　☎03-3405-9999

ESP

Bass Magazine Presents

J×AKHIRO NAMBA

THE POWER OF LOW-END

J×難波章浩　対談、そして競演に至るまでの数奇な符号

LUNA SEA の J と Hi-STANDARD の難波章浩―― 90 年代の邦楽シーンにおいて異なる歴史を築き、片や社会現象を巻き起こすほどのバンドにおいてうねるロック・ベースの魅力を極め、片やベースを携えて歌うパンク・ロックのアイコン的フロントマンとして、ベーシストの存在感を一般に知らしめる功績を果たしたふたりである。

互いの活躍に敬意を払いつつも、ベース・マガジン 2012 年 4 月号での対談が実現するまでまったく面識がなかったというふたりであるが、両者の辿った道筋には意外なまでの共通項が見られる。

まずは彼らが同世代であり、デビューは LUNA SEA が 92 年に対して、Hi-STANDARD が 94 年、そしてバンドが休止したのはどちらも 2000 年という、活動時期の一致。

その後のソロ・ワークにおいて J が聴かせた荒々しい音楽性は、難波もフェイバリットに挙げる 70 年代パンクの衝動を体現したものであり、ここには共通の背景とともに、音を鳴らすことへのモチベーションにパンク精神が滲むという、音楽的ルーツの一致もある。

その表現にベース&ヴォーカルという手法を選んだことも、奏法面で言えば、それを誇示するかのようにどちらもピック弾きにこだわっている点も似ているし、さらには ESP という同じブランドの楽器を携え、音への探求心がオリジナル・デザインの愛器にも傾けられている点など、偶然と片付けてしまうにはあまりにも惜しい符合が重なるのである。

そして何より、対談中に難波の口から飛び出した事実。2011 年のバンド・シーンの話題をさらった Hi-STANDARD の電撃復活から AIR JAM 2011 開催までの流れは、LUNA SEA の REBOOT に勇気づけられたものだという証言も驚きである。

今回の対談はまさに、間接的に刺激し合い、お互いを高めあってきたふたりの奇跡的な邂逅というわけだ。それを踏まえてみると、彼らの言葉の数々が、ことさらに重みを増して感じられるのである。

J

MEMBERS OF J'S BAND

J（b,vo）
藤田 “CBGB” 高志（g）
溝口和紀（g）
スコット・ギャレット（d）

この日はみんなにとって “ 何かが始まる日 ”。そんな日に、俺が燃えないわけないだろ？

●難波さんとはベース・マガジン 2012 年 4 月号での対談が初対面だったそうですが、そのときの印象は？

○もちろん難波君の存在は知っているし、彼がやってきた音楽も当然知っていて。でもね、いつの日か出会うことがあるだろうなと思っていたんだ。ベーマガで対談したのが、まさにその日だったんだよね。この取材の日まで、決して “ 分け隔て ” みたいなものを自分たちで作ったわけではないけど、今まで交わらなかったことすら不思議なことで。それは俺自身も嬉しかったし、そのときはかなり核心まで話せたね。

●実際、いろんな面で共通点が多かったのでは？

○そうだね、同世代っていうことだけじゃなく、聴いてきた音楽や影響を受けてきたものは遠くはないと思うんだ。俺たちにしかわからない、にじみ出る熱量や “ 匂い ” みたいなもの、難波君からは会った瞬間からそれを感じたよ。

● “ ストリートの匂い ” みたいなものも、おふたりの共通点だと思います。

○これはあまり言ったことがないことなんだけど、LUNA SEA ってテレビから映し出されるバンド像や、バンドが大きくなってから映ったイメージっていうものに支配されていた面もあったと思うんだよね。でもね、俺自身はみんなも知ってのとおり、ずっと昔から……ライヴハウスを登りつめていった頃から、さっきも言った “ 匂い ” や “ 熱 ” っていうものに敏感で、そういうものに育てられた人間でね。それを例えばテレビやラジオなど、お茶の間にいる人たちが見ている場所で、ぶちまけちまえって思ってた人間なんだよね。ロックバンドって、教わって始まるものじゃないじゃない？　どれだけ “ 匂い ” を伝えたいかっていうことから始まるものだと思うからね。

●ベーシストとして、難波さんに対する印象は？

○自分自身の思いを、一音一音に叩き込むベーシストだと思う。そこに彼自身の、ベースを弾く理由があるんだろうな。そして、彼の歌うメロディや言葉と同じ速度で低音のアプローチがあって、ひとつの塊になる。それが痛いほどに伝わってくるよね。だからこそ聴いた人を熱くさせるんだろうし、誰しもの心も打ち抜くんじゃないかな。

●難波さんのファンに対して、自分のどういったところを見てもらいたいですか？

○ “ どうやって魅せられるか ” っていうよりも、“ 俺自身がどういうふうに感じられるか ” を共有したい。で、この日は、俺自身にとって “ 何かが始まる日 ” なのかなって思う。そんな日に俺が燃えないわけないだろ（笑）？　ベース・マガジンの表紙をやった日から、ものすごく自然に始まって、このイベントに辿り着くわけでしょ？　すべてにおいてオープンで、テンションの高いイベントになるんじゃないかな。今回のイベントを通じてより深くつながれたらすごくいいなって思うんだ。実際、多くを語り合わなくてもわかり合えちゃうような存在だと思うしね。そして、お互いにデカい音を鳴らして会場を揺らしたとき、観に来てくれた人たちにとっても、また新しい何かが見える気がするよ。

難波章浩

MEMBERS OF NAMBA'S BAND

-AKIHIRO NAMBA-（b,vo）
K5（g）
Lyoki（g）
SAMBU（d）

俺たちのバンド自体、かなり進化しているんで、もうガッツリいくしかないですよ。

●今回のイベントは、Ｊさんとの対談がきっかけになります。

○そうそう、もちろん以前からＪ君の音楽は知ってましたけど、あのときの対談で初めてお会いしたんですよね。まずはね、もう笑顔がステキっていう印象で（笑）、ホントにステキな人だなって思いましたね。そして、背が高くてオーラがあって、カッコいいなぁって思って。でも、いつも笑顔で物腰柔らかいんだけど、秘めた強さっていうのは感じて。Ｊ君もモロにパンクを通ってたからそういった面でも同じなんだなって思いました。しかも年齢も同じで、お互いに LUNA SEA と Hi-STANDARD っていうバンドを結成した時期や活動停止した時期もほぼ同じなんですよね。だからこそ、不思議な縁を感じちゃいますよね。

●さらに、ベース／ヴォーカルという立ち位置でソロという看板を背負っていて。

○そうなんですよ。ソロ活動については、最近意識が変わっていて。初期はソロっていう意識があったんだけども、まずはこのプロジェクトを始めるにあたって、バンド名をつけるか自分の名前でやるかっていうことすら迷うぐらい、“バンド”をやりたかったんですよね。今は難波章浩っていう自分の名前でバンドでやっているけど、ソロ・プロジェクトっぽくはしたくないんです。“バンドとしてヤバい”っていうふうになりたくて。だったらバンド名を付ければいいって思われるかもしれないけど、俺の名前のバンドだから、なんていうか、ほかのメンバーが自由なんですよね。俺が中心にいることで、逆に自由に思いっきりやれるっていう状態になってるんですよ。

●Ｊさんに対する、ベーシストとしての印象は？

○まず、印象として、骨太なベースを弾く人だなって思いますね。図太くて、なんて言うのかな……ステキな人なんだけど、ゴリゴリしている印象があるなぁ。そしてブレなくてズドーンとした一本の軸がある。

●Ｊさんのファンに対して、自分のどういうところを見てもらいたいですか？

○初めて観る人もいると思うんだけど、やっぱり疾走感とかスピード感、そういうものが僕の持ち味だっていう気がするんですよ。うん、そういうところをベースがリードしているっていうところを見てもらえれば、おもしろいと思う。それが伝わればおもしろいかなって思います。

●誌面を通じて、Ｊさんに伝えたいことは？

○実はこの前、電話で話したんです。そこで“スタジオコースト、楽しみましょう！”ってふたりでバッチリ約束できたんですよね。とにかく、ものすごく特別な日になるような気がしてしょうがないんですよ。難波バンドはＪ君に胸を借りるつもりで全力でやりますのでよろしくお願いします！　俺たちのバンド自体、かなり進化しているし、モチベーションがかなり上がってきているんで、もうガッツリいくしかないですよ。

ESP®

Stream

Black
Pearl White Gold
Metallic Blue
Fiesta Red

2 Tone Sunburst

STREAM

PRICE : ¥483,000 (Include TAX)

Marine Blue

Black Cherry

STREAM-CTM

PRICE : ¥546,000 (Include TAX)

Black Cherry

Marine Blue

STREAM-CTM/FF 完全受注生産

PRICE : ¥619,500 (Include TAX)

●ESP営業本部 / 〒354-0046 埼玉県入間郡三芳町竹間沢東3-9 TEL 049-274-3810(代) ●ESP大阪営業所 / 〒530-0016 大阪府大阪市北区中崎3-1-2 ESP梅田東ビル7F TEL 06-6359-0455(代)

◆本広告掲載の製品は、2013年2月現在のものです。なお価格および仕様は予告なく変更、もしくは生産終了となる場合がございます。あらかじめご了承下さい。◆撮影、印刷などの都合上、実際の色と違う場合がございますのでご了承下さい。

MODEL : Junko (POP DISASTER)
PHOTO : YOSHIKA HORITA

楽器、エフェクター、アンプを総合的に捉えた“システム”構築のための必須知識が満載!

電気の基礎知識 | ペダル・ボード製作 | 配線テクニック

ルーティング・システム導入 | ノイズ対策 | トラブル対処

ノイズレス&トラブルレスな環境を構築するための手引き

ギタリストとベーシストのためのシステム構築マニュアル

著者：林幸宏　定価：1,890円（税込）　A5判／176ページ　ISBN978-4-8456-2186-6

林 幸宏 *profile*

（有）フリーザトーンのオーナーおよび代表取締役。エフェクターやシステム関連製品の開発／設計／生産とともに、日本のトップ・プロ・ミュージシャンのシステム設計を幅広く手がけている。

Musician's comment

布袋寅泰

どんなにいいプレイでも音が良くなければ人には伝わらない。どんなに音が良くてもプレイが悪ければまた人には伝わらない。もちろん、良い音とはプレイヤーがその指と心で探し奏でるものだが、それを忠実に、いや、それ以上に増幅させて空気を震わすのは、ギターからアンプに届くまでの過程（システム）にかかっている。「ギターから直に繋いでアンプで鳴らす」という言い方はいかにも純度の高いリアルな音を想像させるが、実際はそこに行き着くまでの電気信号をよく理解しコントロールすることにより、さらなるピュアなサウンドを手に入れる事が出来るのだ。

僕は長年に渡り自分だけの音にこだわってきたつもりだ。誰の音とも違う、「布袋寅泰」の音。それは歪みすぎず、乾きすぎず、伸びすぎず、短すぎず、甘すぎず、硬すぎず、言葉するのは非常に難しいが、右手でギターをヒットするときの感触をそのままアンプに伝えること。自分以上の音になってはいけない。自分の未熟さ、つたなさ、もどかしさこそがアイデンティティーであり、自分のギターに陶酔しない事が大事だ。僕はシステムに頼っていない。頼ってしまうとギターを弾く意味がない。しかしシステムを信頼している。いい音が出ないのをシステムのせいにしてはプロではない。

僕を実験台にして、より良いシステムを探求してほしい。僕のスタイルは死ぬまで変わらないので、実験台には最適だと思う。

レーサーは一人。そして勝利のゴールは多くの協力者たちと分かち合うためにあると思っている。

Musician's comment

SUGIZO

良い音と良い楽器を知って、
電気の知識を追求する。
それぞれがシステムを作るためには
重要な要素だと思う。

artists Bass Magazine Presents THE POWER OF LOW-ENDのオープニング・アクトをつとめるPOP DISASTER！

ベース&ドラム、女性のリズム隊が目を引くPOP DISASTER（GREEN DAYとblink-182によるツアータイトル名をそのままバンド名に引用したそう）は、2003年に結成された注目“ポップパンク”なバンドだ。Hossy（g）、Maiko（d）、Takayuki（vo）、Junko（b）、Ebi（g）の5人で紡がれるサウンドは、業界関係者のみならず、PARAMOREやNew Found GloryといったUSの大物バンドからも高い評価を得ている。2006年～2007年、アメリカの人気レーベルDrive-thru RECORDS所属アーティスト（ALL iSTER、HELLOWGOODBYE、HALIFAX）の日本公演を立て続けにサポート、そしてアルバムをリリースし、一躍時代の寵児となった。

このころメジャーからのオファーがあったにも関わらず、あえてインディーズで勝負をしていたのも彼ららしい。ポップなメロディーや楽曲のスタイルの独創性、インディーズでの人気を獲得しつつも、セールスは伸び悩んでいたという摩訶不思議な現象。紆余曲折あれどしかし、制作に集中した2009年、ベースにJunkoが正式加入し、現在の形を築いた。2011年レーベルを移籍しアルバムを発売、ライブ活動を再開したところで、大ブレイク。FOUR YEAR STRONG、FOREVER THE SICKEST KIDS、YELLOW CARDといった海外バンドのみならず、CLEAVE、COUNTRY YARD、EGG BRAIN、SECRET 7 LINE、SiMなど国内バンドからもサポートの依頼が殺到することとなった。

そんなライブに抜群の定評がある彼らが3月30日（土）、新木場STUDIO COASTでのBass Magazine Presents THE POWER OF LOW-ENDのオープニング・アクトとしての出演が決まった！ メイン・アクトである、J、難波章浩を凌駕するパフォーマンスを見せてくれるか！？ 気になる人はその目で確かめてほしい。

POP DISASTER

◀『CALLING』POP DISASTER（maximum10）
GREEN DAYなどを手がけている巨匠テッド・ジェンセンによるマスタリングの4枚目のアルバム。

event 東北の春フェスARABAKI ROCK FESTIVALが今年も開催

春はもうすぐそこまで来ている、そんな季節の訪れを感じさせてくれる嬉しいニュース。東北が誇る音楽フェス『ARABAKI ROCK FEST. 13』が今年も4月27日（土）、28日（日）、みちのく公園北地区エコキャンプみちのくにて開催される。すでにホームページでは出演アーティストが発表されており、さっそく先行予約をした本誌読者も多いのではないだろうか。そしてこの度、追加第2弾アーティストが発表された。今回発表されたのは、アナログフィッシュ、アルカラ、くるり、THE GREAT PEACE YOUNG SPIRITS “RESPECT FOR 忌野清志郎”、Ken Yokoyama、ZIG ZAG、JUN SKY WALKER（S）、SPECIAL OTHERS、DAD MOM GOD、タテタカコ、ドレスコーズ、THE NOVEMBERS、パスピエ、BIG BEAT CARNIVAL A GO GO produced by JUNZI IKEHATA、藤原美幸、HEY-SMITH、POLYSICS、雅-MIYAVI-、夢弦会、百々和宏、忘れらんねえよ。いずれも見応えのあるバンドが続々と揃ってきており、プレイヤー目線の本誌読者達も今年の出演アーティストはぜひ注目したいところ。

そしてARABAKIと言えばこのフェスでしか実現しない、豪華アーティストが集結するスペシャルバンドが今年も登場する。今回発表されたBIG BEAT CARNIVAL A GO GO produced by JUNZI IKEHATAや、山本健太と名越由貴夫の参加も明らかになった高野勲（key）、佐藤タイジ（g）、ウエノコウジ（b）、武藤昭平（d）からなるARABAKI YOUNG KING BAND、そしてGTR祭2013では豪華アーティスト達による夢の共演に期待。今後いったいどんなサプライズゲストが出てくるのかぜひ注目しよう。

ここでしか見られないアーティスト達による夢のセッション、そして桜舞う抜群のロケーションが広がる春の東北フェスをぜひ体感して欲しい。

開催日：2013年 4月27日（土） 4月28日（日）
※雨天決行　10:00／終演予定21:00
会場：みちのく公園北地区　エコキャンプみちのく（宮城県柴田郡川崎町大字川内字向原254番地）
料金：●入場券　2日通し券￥14,000／2日通し4人券￥48,000／1日券￥8,000
●キャンプサイト券 ￥1,500（1名様）
※別途入場券（2日通し券）必要
●バス券
仙台駅［片道］大人￥1,200／小人￥600［往復］大人￥2,400／小人￥1,200
大河原駅［片道］大人￥800／小人￥400［往復］大人￥1,600／小人￥800
●駐車券　P1駐車場2日通し駐車券￥6,000/台、P2～P5駐車場2日通し駐車券￥5,000/台、1日駐車券￥2,500/台 ※P1駐車場は2日通し駐車券のみ

ARABAKI ROCK FEST.13

http://arabaki.com/

Rittor Music

フ――― ……
今ハ 買エナイノニ
マタ 見ツケ チャッタヨー
ダカラ 次ノ次ノ 給料日マデ
「デジマート」
見チャ 駄目 ダッタノニー

仕事中
とどかぬ夢に
想い馳せ

ディジオ語録集
「嗚呼デジマート」より

ディジオ

日本最大級の楽器検索サイト

楽器探そう!
デジマート
http://www.digimart.net/

No.1
新品・中古・ビンテージ楽器etc.の
登録アイテム数
17万件突破!

ベース・マガジンの人気企画「奏法特集」を1冊に凝縮!厳選された12の特集にノウハウがぎっしり!

contents

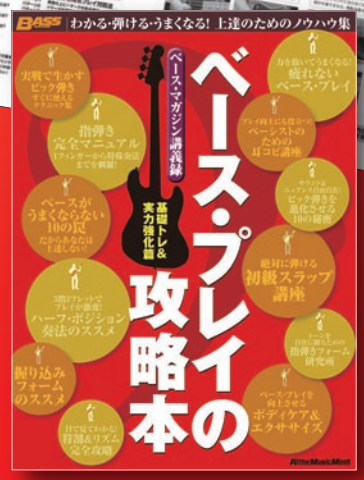
- ★ 実戦で生かす**ピック弾き** すぐに使えるテクニック集
- ★ サウンド&ニュアンス自由自在! **ピック弾き**を進化させる10の秘密
- ★ **指弾き**完全マニュアル　1フィンガーから特殊奏法までを網羅!
- ★ トーンを自在に操るための**指弾きフォーム**研究所
- ★ 絶対に弾ける! **初級スラップ**講座
- ★ ベースがうまくならない**10の罠**　だからあなたは上達しない!
- ★ 力を抜いてうまくなる! **疲れないベース・プレイ**
- ★ 3指3フレットでプレイが激変! **ハーフ・ポジション奏法**のススメ
- ★ **握り込みフォーム**のススメ
- ★ 目で見てわかる! **符割&リズム**完全攻略
- ★ プレイ向上にも役立つ! ベーシストのための**耳コピ**講座
- ★ ベース・プレイを向上させる**ボディケア&エクササイズ**

BASS MAGAZINE

ベース・マガジン講義録

ベース・プレイの攻略本

基礎トレ&実力強化篇



定価:1,260円(税込)
A4変型判／132ページ
ISBN978-4-8456-2171-2

キーボード・マガジンが贈る

H ZETT M

スペシャル・ライヴ&コンテスト開催

特設サイト http://port.rittor-music.co.jp/keyboard/hzettm/

日時 2013.3.16(土) OPEN ▶11:00 START ▶11:30

会場 代官山・晴れたら空に豆まいて

TICKET ● 前売 3,200円(税込) ※別途ドリンク代500円がかかります。

ご購入はコチラから http://mameromantic.com/?p=18195

お問い合わせ●晴れたら空に豆まいて(Tel 03-5456-8880)

前売チケット絶賛発売中!

RittorMusic

主催/企画:リットーミュージック キーボード・マガジン お問い合わせ:代官山・晴れたら空に豆まいて

ヒイズミマサユ機(PE'Z)×H ZETT M

超絶キーボーディスト/ピアニストのすべてが分かる?!

アーティスト・ブック登場

2.6 ON SALE

定価:2,730円(税込)

A4変型判/128ページ/付録:DVD1枚

ISBN978-4-8456-2200-9

プレイヤーのための音楽・楽器情報誌&Webサイト

RandoM

RittorMusic

RittorMusic

音楽学校に行くとこんなイイことがあるかも 管楽器編

▼さまざまな音楽を勉強できて

▼多くの仲間から刺激を受けて

▼あなたの才能を開花させる「人生の師」に出会えるかも

全国の音楽学校情報が満載の“ミュウスク”で気になる学校に即アクセス!

音楽スクール情報サイト

♪ミュウスク

資料請求受付中

http://musicschool-navi.jp/c/ ミュウスク 検索

RittorMusic

日本最大級

ネットでお店を探すように
スタジオだって検索する時代

登録スタジオ数 1,000件突破!

駅近? レンタル? 駐車場? 飲食持込? 予算? レコーディング?

「エリア＋条件」「最寄り駅」で探せる!

No.1スタジオ検索サイト

さがスタ

PC http://studio-navi.jp/c/ さがスタ 検索

RENEWAL OPEN!

TOWER RECORDS SHIBUYA

世界はアーカイブで溢れている。
聴きたい音楽や見たい映像がすぐ手に入る便利な時代になった。

一方で何か物足りなさを感じて、
ライブやフェスには人が集まり、SNSは進化し続ける。

もう膨大な情報を無視する事は誰にも出来ない。
でも人には生きていると実感できる瞬間が何物にも代えがたい。
誰かにアーカイブされた情報の量や利便性だけでなく、
一度だけ、あなただけの感動を。

その時、
何度聴いても瑞々しい感動を与えてくれる音楽があるように、
これまでの人生観を変えてしまうようなライブがあるように、
音楽はあなたの今を輝かせる。

タワーレコードはそう信じています。

LIVE LIVEFUL!
活き活きと生きる。

タワーレコード渋谷店は、音楽と人、音楽と音楽、人と人の間に
リアル店舗ならではの感動や熱い想いを発信するショップに生まれ変わります。

TOWER RECORDS SHIBUYA 11.23 RENEWAL OPEN!